

福島工場が「とうほく SDGs アワード」で奨励賞を受賞しました

森永乳業株式会社福島工場は、「一般社団法人 SDGs とうほく」及び「東北大学大学院経済学研究科」主催の「第2回とうほく SDGs アワード(※)」にて、フードバンクとの取り組みが評価され、奨励賞を受賞しました。

福島工場では、2022 年よりフードバンクに災害備蓄品の提供をはじめ、工場の社員に声掛けを行い、食料品など家庭での余剰品の提供を行うなど、継続的な支援を実施しています。2023 年は、工場の社員からの収集提供に加え、新たに協力会社と連携してフードバンクへの支援を行う予定です。

今回はこうした取り組みが評価され、奨励賞受賞となりました。審査員からは、「フードバンクと対話を重ね、社員と一体となった支援で素晴らしいと思った。企業単独での寄贈の取り組みはよく行われているが、そこから一歩進めて、社員を巻き込んで継続的な支援を行ったり、協力会社へ活動を広げたりしている。社員一人ひとりに対し、社会貢献する機会を提供している点や、社会課題に対する意識を呼び起こしている点で、この活動は大変価値があると思う。これからも長期的・包括的に支援されることを期待している。」という講評をいただきました。



とうほく SDGs アワード受賞式の様子



審査委員に向けてプレゼンする福島工場の社員

森永乳業グループは、コーポレートスローガン「かがやく“笑顔”のために」のもと、サステナビリティ経営の実現を目指し、「『おいしいと健康』をお届けすることにより、豊かな“日常・社会・環境”に貢献し、すべての人のかがやく笑顔を創造し続けます」というサステナビリティビジョンを掲げています。このサステナビリティビジョンの実現に向けた活動を推し進めるべく、2022 年に「サステナビリティ中長期計画 2030」を策定しました。これからも地域コミュニティとの共生を目指し、お客さまの健康で幸せな生活に貢献したいと考えています。

(※)東北 6 県での企業・団体等の優れた SDGs 関連の取り組みを顕彰し、企業・市民・行政の各セクター間での学びを深め、地域課題の解決促進を目指したアワード。